

構成機関からの意見照会事項の取りまとめ結果

(意見照会事項1) ひきこもりの当事者への具体的なアプローチ方法 (あさひかわ若者サポートステーション/サボステ・プラス)

これまで『ひきこもり』に関して、当事者自らよりも保護者（家族）からの相談事例が多い。ただ保護者の思いと当事者の思いが一致していない場合が多く、当事者から相談にくることに繋がらない。家族の協力も必要ではあるが、第三者ができるひきこもり当事者への直接アプローチ方法（自宅訪問以外）があればご教示お願い致します。

(回答) 道立精神保健福祉センター

- ・手紙・メール・チャット等で他人と関わることで社会との接点を持つ方法

(回答) 北海道ひきこもり成年相談センター

・第三者ができる当事者への直接アプローチとしては、ハガキ送付かと思います。保護者（家族）との思いが一致していない場合、支援者が直接アプローチする方法（電話や対面等）は家族と同様に余計なお世話、おせっかいになり、当事者からは煙たがられるように思います。家族も、支援者もまずはできる事は情報提供かと思うので、まずはハガキ等で相談に乗れるという趣旨ではない、関係づくりとしての他愛無い話題を短文で伝えることかと思います。その後、相談に乗れるという趣旨のチラシ等を送付していくのかなと思います。

・当センターのパンフレットを家族に持って行ってもらう事もありますが、そのまま破り捨てる人もいれば、全く関心がないのか置いたところにそのままになっているとか、場所がズれているので読んでいないかもしれないとか、さまざまです。

・家族の表現もそのまま本人の意思を反映しているかと言われれば、そうではない場合も多くあります。「俺は相談なんかしない」と表現していても、家族との関係が上手くいっていないからこそその表現で、根底には「誰かに頼りたい。けれど、何もせずにいる自分は怒られるのではないか。人が怖い。自信がない」というような気持ちでいる当事者もいます。当センターにおいては初回相談は家族が7割、本人が2割、その他1割です。家族相談を続けていく中で、年月をかけながら、本人の気持ちはどのあたりなのか、本人とのずれ違っている関係から、少しは理解してあげられるような関係に少しずつ修復していける事もあります。大抵は年単位の期間が必要になると思います。『ひきこもり』支援においては、あきらめず長く家族・当事者の相談に乗っていくのが基本になっています。就労相談では、即時性も求められるのかなと思いますので、そのあたりが悩ましいところかと思えます。

・方法としては、人にもよりますが、オンライン相談が心性に合う当事者もいるように思います。対人不安から交通機関を使えない方、道内は広いと、交通手段が限られなかなか相談へ足を運べない方もいるように思います。継続相談をしている方でしたが、コロナの影響で不安が強く、Zoomでオンライン相談を数回しました。新規相談での経験はありませんが、間口や方法は広くあって良いと思います。（すでにされているかもしれませんが）

- ・少しでもご参考になれば幸いです。何かあれば遠慮なく個別でもご連絡下さい。

(意見照会事項2) 障害者の障害者雇用以外の就労実績及び企業・関連機関との連携・関係構築方法
(あさひかわ若者サポートステーション/サポステ・プラス)

障害手帳(特に精神)を取得している方でも一般就労を希望しているのが大半であるため障害があっても一般就労として職務に従事している実績とどういった業種・職種に従事しているのか、またどのように企業・関連機関にアプローチしているのかご教示お願い致します。

(回答) 北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

・当課では、障がい者の職業生活における自立のため、雇用、保健、福祉、教育等の地域の関係機関連携の拠点となり、障がい者の身近な地域において就業面及び生活面における一体的な支援を行うため、障害者就業・生活支援センターを委託により設置し、就職を希望する障がい者や在職中の障がい者の抱える課題に応じて、雇用及び福祉の関係機関との連携のもと、支援を行っているところです。

・就職件数については、障がい種別毎に把握しておりますが、手帳の有無や雇用形態(一般、障がい者)、業種・職種については把握しておりません。

(回答) 北海道経済部労働政策局産業人材課

■北海道障害者職業能力開発校

・北海道障害者職業能力開発校修了後に一般就労として就職した例は数件(住宅設計・事務・配送・ガソリンスタンドなど(過去5年調べ))あるが、僅かです。
・本人が障害をクローズして一般求人(ハローワークの求人情報)から応募する場合や、訓練生の希望により指導員が企業に求人問い合わせする場合があります、臨機応変に対応しています。

■障害者委託訓練

[一般就労としての職種]

・スーパーマーケット、水産加工場、菓子店、食品加工場、自動車整備工場、温泉宿泊施設、建設会社、事務補助、ホームセンター、健康増進施設、介護施設

[企業等へのアプローチ]

・ハローワークを通じて、求人企業に対し、高等技術専門学院が実施する職業訓練制度について周知してもらい、企業からの求めに応じて、職業訓練の具体的な説明を行うなどして、雇用に向けた職業訓練(実践能力習得訓練コース)の受託を依頼しています。

※実践能力習得訓練コースについては、企業等を訓練の委託先とし、事業所の現場を活用して実践的な職業能力身につけることを目的としており、そのまま就職に結びつきやすい。

・事前に就職希望者の知的障害の程度と得手不得手等の情報交換を行い、雇用側の認識と配慮を促しています。

[関係機関との連携等]

・市町村の自立支援協議会や、障害者関連団体の集まりに参加して、職業訓練の周知を行っています。

・特別支援学校や高等学校、就労支援施設に、職業訓練の情報発信を行っています。

(回答) 厚生労働省北海道労働局職業安定部職業安定課

① 障害を有する方の就職状況(業種・職種)について

障害種別別の産業別及び職業別の就職件数について、道内のハローワークを通じた障害者の職業紹介状況を取りまとめた資料(令和3年10月)を添付いたしましたので、参照願います(資料4-1-1)。

② 企業や関連機関へのアプローチについて

ハローワークにおいては、障害者を雇用する事業主や雇用しようとしている事業主に、地域の支援機関と連携の上、雇用管理上の配慮などについての助言等のほか、職場実習や各種助成金制度の案内、求人者や求職者が一堂に会する就職面接会の開催、必要に応じて地域障害者職業センターなどの専門機関の紹介、定着支援などを実施しています。

概要については別添の「障害者雇用のご案内」、「障害者雇用のすすめ」を参照願います(資料4-1-2、4-1-3)。

なお、具体的な雇用事例として、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構のHPでは「障害者雇用事例リファレンスサービス」で障害者雇用に取り組んでいる事業所の好事例も紹介されていますので、①にも関連すると思っておりますので、お知らせいたします。

(回答) (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構北海道支部

- 「一般就労」の定義がはっきりしませんが、フルタイム雇用ということであれば、数字でまとめていませんが、福祉施設での清掃業務や宅配センターでのバックヤード業務などに従事している例があります。
- 障害者専用求人以外の一般求人への応募、又は障害をクローズで応募ということであれば、上司、同僚などの周囲への配慮事項や通院等の配慮事項など就職前に明らかにしておいた方が、就職後本人が勤務しやすくなることから、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構北海道支部北海道障害者職業センターでは、障害をオープンにし加えて配慮事項等を記した「ナビブック」を作成して面接に臨むように支援をしています。
- いずれも、一番大事なのは「本人の意向」ですので、十分に相談のうえ方針を決定しています。

(意見照会事項3) コロナ禍における就労体験、職場体験等の受入先開拓や受入先との感染症対策に関する事前協議等について(くしろ若者サポートステーション)

- ・職場体験事業や短期間の就労体験・見学先の開拓において新型コロナウイルス感染症対策の観点からなかなか企業の開拓が進まない状況がありました。現在緩和されつつありますが、十分な警戒は必要であり企業側も慎重な姿勢です。
- ・他のサポステでは、コロナ禍での職場体験事業などはそのような業種で受け入れ実績があるのか。また、企業とのやりとりの中でサポステ利用者や職員が施設内・企業内に入る際にどのような感染予防対策等を提案、準備しているのか、参考として教えて頂けたらと思います。

(回答) さっぽろ若者サポートステーション

- ・製造業が主な体験先となっております。コロナ禍であることにはあまり関係なく、希望者本人のニーズに基づき開拓を進めています。企業としても受入れのリスクがある時期では「なぜここを希望したのか」に注視しているが傾向にありますので、結果的にこの考えを貫くことが効果的でした。
- ・感染予防対策としては、企業の条件を受け入れることはもちろんのこと、日常の体調チェック(参加前の検温)等、基本的な対策を必須としています。

(回答) あさひかわ若者サポートステーション/サポステ・プラス

- ・コロナ禍の旭川は、現在も何らかの活動制限がある状況が続いております。これに伴い、昨年は「就労体験」「職場体験」といった“人が集う”事柄について、依頼や実行を要請することを自粛しておりました。しかしながら、サポステの活動は続いておりましたので、「北海道スタイル」「新しい生活様式」を念頭に、職員・利用者が施設内・企業内に入る際には、マスクの着用と手指消毒を今も徹底しております。

(回答) はこだて若者サポートステーション/サポステ・プラス

- ・現在のコロナ禍での職場体験は、ほぼ出来ない状況です。就労へのマッチングとしては、体験出来ないまでも職場見学はして頂ける企業多数あり、就職応募を前提としてサポステ職員同席で見学・面接をさせて頂いています。

(回答) とまこまい若者サポートステーション/サポステ・プラス

- ・当サポステでも、新型コロナウイルスの影響によって、職場体験等は進んでいないのが現状です。企業さんにおいても、職場実習は控えたいと考える所も多いです。感染対策については、各企業様で実施している対策に準じて行う場合がほとんどです。

(回答) オホーツク若者サポートステーション

- ・当サポステではコロナ関連で職場見学等に影響があったことはあまりありません。

(回答) おびひろ若者サポートステーション/サポステ・プラス

- ・昨年より複数社の協力企業へ職場体験実施先として了承を得ているが、緊急事態宣言もあり、未実施です。

(意見照会事項4) 地域資源の少ない地域における、複合的な課題を有する支援対象者に関してのネットワーク作りについて (くしろ若者サポートステーション)

経済的な問題や家庭環境、障害・疾病、経験不足や対人スキル等多岐にわたる課題を抱える若者が多く来所しています。就労に向かっていく過程に支援のネットワークを構築していくにあたり、都市部以外や地域資源の少ない地域でどのように一人ひとりの課題にネットワークを構築、開拓しているのか伺えたらと思います。

(回答) 北海道ひきこもり成年相談センター

・当センターでは、毎年保健所を通じて市町村を通じて「ひきこもり相談会・研修会」として、研修会の開催、ひきこもり個別相談、ケース検討等を希望のある地域で実施しています。例えば、ケース検討であれば各支援機関、当センターも含め、就労、福祉、教育等、直接支援しているところ、過去に支援していたところ、これから支援する可能性があるところ、などが一同に集まり意見交換することもあります。顔つなぎもありますが、お互いがどのような支援をしているのか具体的にイメージできる場合も多くあります。あるいは研修会では、支援機関の方々に集まっていただき、ひきこもりについて基本的な対応方法をお伝えすることや、過去には架空ケースを用いてグループワークをすることでそれぞれの支援機関の雰囲気を感じ取れたりといった顔つなぎにもなっているように思います。

・またひきこもりに関しては、多様な課題を抱えている場合も多く、教育、就労、介護、法律等さまざまなところと連携できたらと考えます。札幌市では、さっぽろサポステと合同でひきこもり・就労の合同説明会と題して告知開催し、家族・当事者に集まっていただき、ひきこもり相談か、就労相談か、最初の入口にもなっています。

・全国的に言えば、ひきこもりに関しては就労に向かっていく過程の1つとして「居場所」というものがあります。居場所は必ずしも就労に繋がるためのものではありませんが、人と出会うこと、情報を知ること、就労へ動き出す方もいます。実際に札幌市で行う居場所「よりどころ」では、他参加者の様子を聞いて、就労にチャレンジする方もいました。ひきこもりの居場所には、当事者、元当事者、少し働いている方、就労している方、さまざまな方が来ます。全国的にみれば、居場所には就労の窓口へすぐ繋がるとか、相談ができる職員がたまに顔を出すとか、何かしらのプラットフォームのようにもなっている場合もあります。そうした居場所に、さまざまな機関がいつでもふらっと寄れるような繋がりもあっても良いように思います。(当事者からは、余計なおせっかいだと支援者を煙たがる場合もあると思いますが)

(回答) さっぽろ若者サポートステーション

・具体的なケースを基に連携を構築していく流れが効果的です。ケースにおける困りごとを細分化し、機関のみならず地域のサポーターを活用するという視点も取り入れ、実施後には好事例をフィードバックしながら1つずつ連携先を広げていく営みが必要なのだと心がけています。

(回答) あさひかわ若者サポートステーション/サポステ・プラス

・都会や地域資源の有り無しはあまり気にせず、サポステ利用者の状況をきちんと把握し、その情報をチーム内で共有し、解決手段を考えますが、次の支援団体等への相談・情報共有することもあります。

- 地方自治体(自立支援協議会などに参加)
- ハローワーク
- 保健所(こころの健康係とのつながりや自殺対策ネットワーク会議などへの参加)
- 福祉就労支援機関(就労移行施設や就労B型などとのつながり)
- ジョブカフェ・ジョブサロン
- ポリテクセンター
- 学校教育機関

(回答) はこだて若者サポートステーション/サポステ・プラス

・地方相談者の課題は、求人の質・量とも厳しく地元への就職が困難を極めています。

・函館市近郊への通勤が可能かどうか? 転居が可能か? 等で具体的な企業・団体へのご紹介、マッチングを進めることができます。従って現実的には家族の協力と協力企業へのコーディネートを個別に対応しつつ行なっているところが現状です。又経済的な問題、障害・疾病等の問題については、市役所、HW、病院、就労移行支援事業所等への繋ぎにより情報共有しながら支援を継続しています。

(回答) とまこまい若者サポートステーション/サポステ・プラス

・市役所や関係機関との連携を今まで通りに行っているのが実情です。

(回答) オホーツク若者サポートステーション

- ・社会資源の少ない地域での支援は、当サポステでも苦労しているのが現実です。
- ・町役場の福祉課や保健師と連携を取り、病院受診や、障害者手帳の申請や自立支援医療受給者証の取得をサポートし、障がい者就労支援事業所への通所につなげるケースはよくあります。
- ・町役場との連携が不調な場合、やや乱暴ですが、団体が運営している居住支援施設に転居していただき、医療につなげたケースもありました。

(回答) おびひろ若者サポートステーション/サポステ・プラス

- ・就職以外の課題については、利用者が、就職以外の課題解決を希望した場合は専門機関などの紹介または同行をし、解決方法を検討する連携を実施する場合もあるが、その限りではない利用者もいるため利用者の課題解決の優先順位含め必要性を考えた上で連携支援、支援要請を実施しています。
- 主な紹介先：生活困窮者支援団体・障がい受容のあるケースではナカボツ（障害者就業・生活支援センター）、医療機関、行政機関など